

**高梁市地域包括支援センター
令和6年度事業評価及び令和7年度計画**

● 高梁市地域包括支援センター事業費総額

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7 当初予算
事業勘定 (地域支援事業)	205,344,377	216,362,672	231,660,000
サービス勘定 (居宅介護支援事業)	11,170,908	10,471,889	11,772,000

●介護予防・日常生活支援総合事業

Ⅰ. 訪問型サービス・通所型サービス

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7 当初予算
①訪問介護サービス	16,279,840	16,655,029	19,100,000
②通所介護サービス	40,818,158	44,106,287	46,935,000
③高額介護予防サービス	125,859	168,747	400,000
③介護予防ケアマネジメント	3,656,372	4,178,660	5,000,000
審査支払手数料	210,070	230,230	252,000
合 計	61,090,299	65,338,953	71,687,000

事業名	①総合事業訪問介護（現行型・緩和型） ②総合事業通所介護（現行型・緩和型）			
取 組	【訪問現行型】ホームヘルプサービス 【訪問緩和型】ミニホームヘルプサービス 【通所現行型】デイサービス 【通所緩和型】総合事業ミニデイサービス、通所型サービスA、通所型サービスB			
実 績		R 5 実績	R 6 実績	R 7 計画
		実日数（件数）	実日数（件数）	実日数（件数）
	訪問介護	5,331(917)	5,209 (915)	5,500(950)
	通所介護	7,243(1,374)	7,306(1,460)	7,820(1,500)

事業名	③介護予防ケアマネジメント			
取 組	ケアプラン作成			
目 標	サービス利用者の延べ人数			
	件数（人）	R 5 実績	R 6 実績	R 7 計画
	ケアマネジメント	717人	914人	950人

2. 一般介護予防事業

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7 当初予算
① 介護予防普及啓発事業（健康づくり課）	2,870,784	2,524,892	3,162,000
一般介護予防事業（人件費）	30,738,005	31,502,521	35,219,000
②地域介護予防活動支援事業	306,712	1,326,837	350,000
③地域リハビリテーション活動支援事業	84,000	102,000	168,000
④通所付添サポート事業	1,366,465	1,948,493	2,805,000
合 計	35,365,966	37,404,743	41,704,000

①介護予防普及啓発事業（健康づくり課）

	R 5実績	R 6実績	R 7計画
ミニデイサービス	9地区 (延102会場)	9地区 (延103会場)	8地区 (延96会場)
介護予防教室	50会場・116回	43会場・96回	50会場・130回
運動指導士派遣	94回 1,253人	96回 1,378人	95回 1,500人

②地域介護予防活動支援事業

「元気なからだづくり隊グループの活動支援」と「通いの場」の育成を支援し、閉じこもり防止と介護予防の意識向上を促進する。

(ア) 「元気なからだづくり隊グループの活動支援」と「通いの場」の育成

事業名	地域介護予防活動支援事業			
取 組	元気なからだづくり隊グループの活動支援			
実績	市内全域	＊第9期介護保険事業計画		
		R 5実績	R 6実績	R 7計画
	目標	25	25	26
	実績（予定）	22	23	24
	活動者数	337	357	370
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新規グループが1か所増えた ・交流会を開催し各グループとの交流や情報交換等を行い活動の活性化をつなげた。 			
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・登録団体を増やすために事業の周知を行うと共に、組織や団体への働きかけを行っていく。 ・グループ活動継続のためリーダー研修会を新規実施予定 			

事業名	地域介護予防活動支援事業			
取 組	通いの場活動支援補助金			
実績		R5実績	R6実績	R7計画
	実 績（件数）	11	13	15
実施内容	週1回開催で6か月継続などの条件を満たした介護予防活動団体へ、活動補助（上限額38,000円）と構成員補助（65歳以上1人100円）を合わせた補助金を助成する。			
評価	・活動はロコモ予防体操だけでなく、定期的に集うことから高齢者の引きこもり予防となっている。			
計画	・新たな登録団体の増加に向け、事業のPRと働きかけを行っていく。			

③地域リハビリテーション活動支援事業

岡山県リハビリテーション専門職団体連合会や市内医療機関からリハビリ職の派遣を受け、地域ケア個別会議（毎月2回）でケアプランに対する助言、指導を受ける。

実績		R5実績	R6実績	R7計画
	回数（件数）	18回(83人)	23回（122人）	24回（144人）
評価	リハビリ専門職から助言を生かし、要介護にならないための重視すべき点やリハビリの方向性を確認できている。			
計画	リハビリ専門職の参加が安定的に得られるようになり、たくさんの事例に対しアドバイスがもらえた。次年度はリハビリ専門職が訪問相談も行えるよう計画する。			

④通所付添サポート事業

地域住民主体による「通いの場」への送迎を行う事業。高齢者の閉じこもりを予防するため2人1組で誘い出し、「通いの場」への付添活動を行う。高梁・津川・川面・巨瀬・松原・中井・落合・有漢・川上で実施した。

実績	高梁：12回 利用者 117人 津川：32回 利用者 191人 川面：24回 利用者 107人 巨瀬：43回 利用者 674人 中井：25回 利用者 199人 松原：12回 利用者 81人 落合：11回 利用者 93人 有漢：47回 利用者 524人 川上：12回 利用者 152人 合計218回 利用者 2,138人			
評価	・年間を通じてほぼ予定通りの活動が行えた。 ・高齢者の閉じこもり予防が期待できる。			
計画	・通所付添サポーターの確保を行い既存団体の活動を継続する。 ・使用車両の確保のため新たな借り受け先などを見つける。			

●包括的支援事業

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7 当初予算
①総合相談事業	10,548,300	10,821,100	12,960,000
②権利擁護事業	379,500	380,160	622,000
③地域包括支援事業	49,661,296	55,389,990	59,579,000
合 計	60,589,096	66,591,250	73,161,000

①総合相談事業

事業名	総合相談支援事業
事業内容	<p>高齢者の総合相談窓口として地域包括支援センターと3か所の地域包括ステーション、市内4か所の在宅介護支援センターで、相談業務及び実態把握を行う。</p> <p>委託事業所 ゆうゆう村在宅介護支援センター 白和荘在宅介護支援センター 在宅介護支援センターグリーンヒル順正 高梁市社会福祉協議会在宅介護支援センター</p>
目 標	訪問による実態把握を行い、高齢者の介護予防と自立した生活を支援する。要援護者の早期発見・支援に繋げる。
実 績	・総合相談 3,493件 【R 5 3,543件】
	・実態把握 1,373件 【R 5 1,404件】
評 価	各在宅介護支援センターへ配付している85歳以上の高齢者のみ世帯・75歳以上市営住宅居住独居高齢者名簿を活用し、訪問歴の無い高齢者の実態把握に努めた。担当者の顔写真入りのチラシを高齢者に配付することで相談窓口の周知を行った。
計 画	総合相談窓口の周知のために広報紙、在宅介護支援センター担当者の顔写真入りチラシの作成・配付、民生委員への広報を行う。介護予防・重度化防止のために、要援護者が早期に相談できる体制づくりを行い、訪問による実態把握を通して早期発見・対応に繋げる。

②権利擁護事業

事業名	権利擁護事業
事業内容	<p>・高齢者に対する虐待の早期発見・対応、生活上の困難事例等について、高齢者虐待防止チーム（弁護士、司法書士、社会福祉士）の助言、指導により問題解決を図る。</p> <p>委託先：岡山弁護士会・岡山県司法書士会・岡山県社会福祉士会 〔弁護士〕小野 寛之〔司法書士〕崎山 晃史〔社会福祉士〕加藤 貴之</p> <p>・被虐待高齢者の避難先の確保を円滑に行い権利擁護の促進を図る。</p>
目 標	虐待の早期発見、早期対応、高齢者の権利擁護を理解し、虐待予防に繋げる。

実 績	高齢者虐待通報件数 6 件 【R 5 0件】
	権利擁護・虐待相談延数 9 1 件 【R 5 8 8件】
評 価	・ケアマネジャーや民生委員・主任児童委員に向けて虐待防止や早期発見・対応の周知を行った。 ・虐待防止定例会議を開催し、高齢者虐待防止チームから定期的に専門的助言を受けることにより、虐待防止体制の強化を図った。
計 画	高齢者虐待防止について周知を行い、虐待の防止、早期発見・早期対応を行う。

③地域包括支援事業

事業名	(ア) 地域包括支援センター運営事業 (イ) 地域ケア会議推進事業
事業内容	・地域包括支援センターの運営 ・地域包括支援センター運営協議会及び各委員会、地域ケア会議の開催

令和7年度 高梁市包括支援センター体制

職員の配置状況 14人

管理者	保健師	社会福祉士	主任介護支援専門員	その他(臨時職員含む)
1	5	3	3	2
基準人員	2	2	2	

＊人員基準は、高齢者人口3,000人から6,000人に対し、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員をそれぞれ1人配置することとなっており、本市の高齢者人口は、11,489人(R7.3月末)であるため、基準人数を満たしている。

●在宅医療・介護連携推進事業

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7 当初予算
①在宅医療・介護連携推進事業	2,770,572	3,873,527	4,127,000

事業名	①在宅医療・介護連携推進事業
事業内容	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療と介護を一体的に提供するために、関係者間の連携強化を図る。

<p>実績</p>	<p>1. 在宅医療・介護の普及啓発 高梁市医療・介護市民公開講座を開催し、寸劇を通して人生会議（ACP）への理解を図るとともに、岡山大学学術研究院 教授 中尾 篤典 先生を講師にお招きし、「救急現場の視点から考える～ACPや救急医療のかかり方～」と題した講演を実施し、在宅医療・介護連携の普及・啓発を図った。</p> <p>2. 人生会議（ACP）の普及・啓発 人生会議（ACP）の普及・啓発のツールである「話し合いガイド・記入シート」を活用し、普及啓発を行った。</p> <p>3. 連携支援システムの利用促進 多職種情報連携ツールとして、「ラインワークス」を活用した全市的な運用を開始し、情報共有システムの構築を行った。</p> <p>4. 多職種連携研修会 市内専門職を対象に、「利用者側に寄り添ったコミュニケーション マニュアルの視点から」と題した研修会を集合形式で開催し、専門職のスキルアップを図るとともに、顔の見える関係づくりの構築に努めた。</p>
<p>評価</p>	<p>多職種連携研修会の開催により他職種への理解を深めるとともに、多職種間での連携を強化することで支援のさらなる向上が期待できる。</p> <p>令和6年度より全市的な情報共有システムの運用を開始した、情報共有ネットワークの構築について、より良い運用方法について検討する必要がある。</p>
<p>計画</p>	<p>1. 医療・介護市民公開講座の開催 2. 人生会議（ACP）の普及・啓発 3. 多職種連携研修会の開催 4. ICTを活用した地域ネットワークシステムの在り方を検討 5. 専門職のスキルアップと人材育成</p>

●生活支援体制整備事業

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7当初予算
①生活支援体制整備事業	16,396,913	16,325,450	17,259,000
事業名	①生活支援体制整備事業		
事業内容	<p>第1層、第2層の協議体を設置し、既存資源やニーズ・課題を共有し、資源開発、担い手の育成をしつつ、高齢者の生活支援や介護予防の推進を図る。</p> <p>《生活支援体制整備事業委託事業 委託先：高梁市社会福祉協議会》</p> <p>◇第1層協議体（高梁市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズと資源の状況の見える化 ・既存の地域資源やサービスを利用した地域ごとのサービスの検討 ・第2層協議体との連携、ネットワーク化 <p>◇第2層協議体（各地区社会福祉協議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとの取組方針を検討 ・地域資源やニーズ見える化 <p>◇生活支援コーディネーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1層 地域包括支援センター 兼務 1名 ・第2層 高梁市社会福祉協議会職員 専任 4名 		
実績	<p>◇ボランティア養成講座 受講者：有漢会場 7名（修了者5名、登録者1名） （令和7年3月末 登録者数 30名）</p> <p>◇ボランティアスキルアップ講座 令和6年度初開催 参加者7名</p> <p>◇いきいき生活サポート事業 利用者：4名</p> <p>◇第1層協議体への参画（7月5日、11月29日、2月14日）</p> <p>◇第2層協議体における活動 地域課題の把握・計画実施・評価 地域住民、地域関係者との話し合い</p>		
評価	<p>地区ミーティングでは地区の社会資源の整理をすると共に、新たな通いの場の設置や利用者増加に向けての話し合いを行った。</p> <p>ボランティアスキルアップ講座を始めて開催。実践発表、グループワークを行った。</p>		
計画	<p>第1層協議体で検討課題になっている「買い物支援」を基に、各地区の状況や課題を把握していく。いきいき生活サポート事業の周知に取り組み、利用促進につなげる。</p>		

●認知症総合支援事業

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7 当初予算
①認知症初期集中支援推進事業	131,743	190,200	288,000
②認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業	125,159	135,450	73,000
③認知症ケア向上推進事業	1,386,000	1,215,100	1,720,000
合 計	1,642,902	1,540,750	2,081,000

事業名	①認知症初期集中支援推進事業
事業内容	<p>認知症サポート医を含む認知症初期集中支援チームが、家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援等の初期の支援を包括的、集中的（おおむね6か月）に行うことで、自立生活のサポートとともに必要な医療や介護サービスに引き継ぐ。</p> <p>認知症サポート医：3名 認知症初期集中支援チーム員数（令和6年度研修受講済者数）：保健師 2名（うち1名）、社会福祉士 3名（うち1名） 介護福祉士（主任介護支援専門員）1名 計 6名 チーム数：1</p>
実績	<p>初期集中支援チーム員連絡会議の開催 8月、11月、2月 新規初期集中支援チーム員の養成 2名 初期集中支援チーム派遣：4件（延べ訪問回数：15回）</p>
評価	<p>サポート医を含めたチームの連絡会を年3回開催することにより、円滑に情報共有ができ、初期集中としての役割を果たすことができた。対応件数は4件であるが、うち3件は独居であり、市外に住む親族と地域の介護・医療サービス、地域の見守り等を効果的につなげることで、在宅生活の継続を図ることができた。</p>
計画	<p>初期集中支援チーム員連絡会議の開催を年3回実施し、事例検討、情報共有を行い、早期発見・早期治療につなげる。また、在宅介護支援センター、介護支援専門員等にも呼びかけ、対象となるケースがあれば、早めの相談を呼びかける。初期集中支援チーム員を1-2名養成する。チーム数：2で活動する。</p>

事業名	②認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業
事業内容	<p>地域における認知症高齢者とその家族への相談・支援と、認知症の人への支援体制を構築し関係者間の連携強化を行う。</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターステップアップ講座を2か所で開催（畦地ふれあいサロン・認知症サポーター希望者） ・オレンジサポーターの登録 新規9名 ・新規で「チームオレンジ畦地有志」が結成された。 ・オレンジサポーター、チームオレンジのフォローアップとして「救急法について」の研修後、交流会を実施した。参加者からは「救急法や応急処置の勉強ができてよかった」「他のチームでの活動を知ることによって認知症本人や家族への支援を改めて考えるよい機会になった」との意見があった。

評 価	新たに1か所でチームオレンジが立ち上がった。認知症の人や家族が地域での生活が継続できるように今後も各地でのチームオレンジの立ち上げ支援と活動支援が必要。
計 画	継続して認知症サポーターステップアップ講座を実施する。 認知症サポーターを中心にした本人・家族のニーズと支援をつなぐチームオレンジの活動支援。
事業名	③認知症ケア向上推進事業
事業内容	地域密着型施設を始め、認知症対応可能な専門職やキャラバン・メイトがいる事業所、ボランティア団体等により認知症の人とその家族、地域の人が集う場（認知症カフェ）を運営する。 認知症地域支援推進員を配置し、地域における認知症高齢者とその家族への相談・支援の実施と、認知症の人への支援体制を構築し関係者間の連携強化を行う。また、認知症についての正しい知識の普及啓発の取り組みを実施する。
実 績	<p>【認知症カフェ】 継続9、新規0 計9か所 利用者：1231人（認知症135人、家族53人、一般1043人、相談14件）</p> <p>○高梁圏域 カフェ福ちゃん（福実会） カフェ すずらん（有限会社 竹谷急送） ふらっとカフェオレンジ（グループホーム ウエルネス津川） マスカットカフェin高梁（(株)マスカット薬局） カフェキク（ボランティア団体 カフェキク） サニー健幸ラウンジ(サニードラッグ)</p> <p>○成羽圏域 なりわ茶屋（まっくらクリニック） なりわ茶屋 i n 川北（(株)ゆう）</p> <p>○川上圏域 かわかみ茶坊（ボランティア団体 かわかみ茶坊）</p> <p>【認知症地域支援推進員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに2名が認知症地域支援推進員研修を受講し、1名が現任者研修を受講した。 ・認知症の人、家族への個別支援➡ 54名 高梁（10）津川（1）川面（1）中井（3）宇治（4）巨瀬（6） 落合（4）有漢（8）川上（16）備中（1） ・本人ミーティングの開催 第1回 日時：6月19日（水）13：30～15：00 参加者：本人 4名、家族 3名、支援者 3名 第2回 日時：12月4日（水）13：30～15：30 参加者：本人 6名、家族 4名、支援者 5名

	<p>【普及啓発活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の認知症月間を中心とした認知症理解普及啓発活動を開催 （幟の設置、パネル展示、街頭啓発、まちかど相談会の実施、行政放送番組の作成・放送、認知症を知るフェアの開催、マグネットステッカー、啓発ポスターの掲示、オレンジガーデニングプロジェクトの実施、一般向け認知症サポーター養成講座の開催） ・ 吉備国際大学でのパネル展示、備北信用金庫主催認知症予防セミナーでのパネル展示の実施 ・ 本人向け認知症ケアパスの展示・配布、市内医療・介護等事業所の他、市内金融機関、自動車学校に配付し、普及啓発を行った。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9か所の認知症カフェが継続し運営を行った。認知症本人、家族ともに利用者数が少しずつ増加している。認知症カフェ連絡会を年間2回開催し、運営支援を行った。 ・ 介護保険サービスを利用しない認知症の人やその家族が安心して通える認知症カフェの運営を継続する必要がある。 ・ 令和6年度、初めて本人ミーティングを開催。今後も意識して本人の声を聴いていく必要があり、また、その聴いた声やニーズをどう活かしていくか検討が必要。 ・ 9月の認知症月間に合わせて認知症理解推進の取り組みを行った。
計 画	<p>認知症カフェの運営が継続できるようカフェ運営団体の支援を行う。</p> <p>初めて本人ミーティングを開催したが、今後も意識して本人の声を聴いていく必要があり、継続して開催する。</p> <p>9月の認知症月間に合わせて開催した認知症理解推進の取り組みについては認知症について正しく理解できるよう、今後も啓発活動を継続して実施する。</p>

●地域ケア会議推進事業

事業費	R5決算	R6決算見込	R7当初予算
①地域ケア会議推進事業	146,039	135,515	238,000

事業名	①地域ケア会議推進事業
事業内容	高齢者が住み慣れた地域で尊厳ある生活を可能な限り継続できる「地域包括ケアシステム」の実現をめざし、専門多職種及び地域の関係者により構成する会議（地域包括支援センター運営協議会、地域包括システム検討委員会、認知症施策検討委員会、在宅医療・介護連携推進協議会、各種ケース検討会議等）の運営を行う。
目標	各種会議等を通じて地域課題の抽出を行う。
実績	地域包括支援センター運営協議会2回、地域包括ケアシステム検討委員会3回 認知症施策検討委員会 3回、在宅医療・介護連携推進協議会 2回 小地域ケア会議 102回、地域ケア個別会議 24回
評価	会議等の開催により関係者間で課題を検討した。
計画	地域ケア会議等に提供された事例より課題を集計し、検討課題の抽出をはかる。

※地域包括システム検討委員会、認知症施策検討委員会、在宅医療・介護連携推進協議会の詳細は、会議毎に報告

●任意事業

事業費	R5決算	R6決算見込	R7当初予算
任意事業	27,342,590	25,177,424	29,683,000

Ⅰ．介護給付費等適正化事業

事業費	R5決算	R6決算見込	R7当初予算
①介護サービス事業者適正化支援事業	31,000	29,600	47,000
②介護費用適正化対策事業	759,505	660,000	690,000
合計	790,505	689,600	737,000

事業名	①介護サービス事業者適正化支援事業
事業内容	市内の介護支援専門員を対象に研修会を実施し、資質向上と情報交換を図る。
目標	アセスメント力の向上等制度改正に基づく内容を充実させる。

実 績	<p>○居宅及び介護保険施設、サービス事業所に従事する介護支援専門員に対して、研修会を実施。</p> <p>・1回目 6月28日（金）（第1部）「ヤングケアラーへの理解と支援の在り方を考える。 ～こどもの声をまん中にすえた支援～」 （第2部）「障害者総合支援法ならびに相談支援について」 参加者 30名</p> <p>・2回目 10月 3日（木）「認知症と高齢者の精神保健」 参加者 51名</p> <p>・3回目 3月17日（月）（第1部）「高齢者虐待防止研修」 （第2部）「転倒・骨折予防」 ※成羽病院出前講座 参加者 36名</p>
評 価	<p>認知症、ヤングケアラー、高齢者虐待については、居宅・施設ケアマネが受講しなければならない研修として義務化されているため、高梁市において計画した。精神保健については、さきがけホスピタルの兒玉先生の講演ということもあり、居宅のケアマネだけではなく、施設ケアマネや福祉事業所の介護職員など、幅広い職種の参加があった。成羽病院の出前講座については、医師やそれぞれの専門分野の講師を依頼できるため、毎年1回利用させてもらっている。</p>
計 画	<p>市内の全ケアマネ向けに研修会を計画し、どの研修会も居宅や施設ケアマネ目線で参加できるようにしていく。また令和7年度は、認知症疾患医療センターと合同開催の研修会を予定しており、市内のケアマネだけではなく、幅広く医療・福祉の関係者に参加していただく予定。</p>

事業名	②介護費用適正化対策事業
事業内容	<p>岡山県介護給付適正化計画に基づき、市町村保険者が取組むべき事業の実施</p> <p>認定調査状況チェック、ケアプランチェックや住宅改修及び福祉用具に関する調査。</p>
評 価	<p>認定調査について、市職員の調査も別の職員が点検することにより、制度を高めている。ケアプランについて実地指導時に点検を行った。住宅改修・福祉用具の申請について、設計図や主治医意見書により必要性を判断した。</p>
計 画	今年度も同様に行う予定。

2. 家族介護継続支援事業

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7 当初予算
①家族介護教室事業	10,785	49,490	80,000
②家族介護者交流事業	25,280	24,914	76,000
③認知症高齢者見守り事業	0	0	20,000
合 計	36,065	74,404	176,000

事業名	①家族介護教室事業
事業内容	<p>市内4か所の在宅介護支援センターへの委託と成羽、川上、備中地域の高齢者や高齢者を介護している家族介護者を対象に、認知症予防や介護予防、介護方法等を内容とした研修会を実施。</p>

目 標	介護に関する知識や技術を習得できるよう、介護者への支援を行う。
実 績	参加者：71人（3回開催）
評 価	単独での開催は難しく、他の事業と併せての開催をしている。
計 画	他の事業と併せて開催するなど開催、参加しやすい工夫を行っていく。

事業名	②家族介護者交流事業（元気回復事業）
事業内容	<p>介護者又は要介護者が市内在住で要介護者（40歳以上）を在宅介護している家族介護者を対象に、次のことを目的として交流会を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な介護技術・知識の習得 ・介護からの一時的な開放を目的とした介護者相互の交流
実 績	<p>第1回 日 時：令和6年7月19日(金)10:00～13:00 内 容：講話「フラワーアレンジメント」・参加者交流・会食 参加者：4人</p> <p>第2回 日 時：令和6年11月26日（火）10:00～14:00 内 容：施設見学（老人福祉施設 光憂館）・参加者交流・会食 参加者：9人</p> <p>第3回 日 時：令和7年3月5日(水)10時00分～13時00分 内 容：講話「薬の飲み合わせ」・アロマクリーム作り・ 参加者交流・会食 参加者：11人</p>
評 価	<p>補助金交付により家族介護者の会「つくし会」を運営していたが、介護者主体で会を運営することが困難となったため、令和3年度から、市主体で家族介護者交流事業を実施している。</p> <p>参加者数は10人前後であるが、「情報交換の場になっている」「同じ悩みを持っている者同士で話せる場があり有難い」と言った感想があり参加介護者にとって有意義である。今後は、家族介護者にかかわりのある専門職や介護事業者などとの連携による開催を試みる。</p>
計 画	<p>市の主催により介護技術・知識の研鑽、介護者の交流の場を開催する。</p> <p>交流事業：参加者増につながるよう、岡山県介護支援専門員協会高梁支部との連携を図りながら開催方法や内容を検討する。</p>

事業名	③認知症高齢者見守り事業			
事業内容	<p>みまもりネットワークの体制整備と高齢者位置情報サービスを利用する際の初期導入費の助成を行う。</p> <p>●みまもりネットワーク 認知症等により行方不明となる心配のある高齢者の家族に、事前登録をしてもらい、日常の見守りと行方不明時における連絡体制、警察や消防等との情報共有を行い、早期発見へ繋げる。</p> <p>●みまもりサポーター（大切なあなたを見守り隊） みまもりメールに登録した団体及び企業の名称</p> <p>●高齢者位置情報サービス 高齢者位置情報サービスを利用する際の初期導入費の助成 助成額：10,000円（初期導入費のみ、維持費は本人負担）</p>			
	情報提供件数	R 4 実績	R 5 実績	R 6 計画
	行方不明事案	4 件	1 件	2 件
	みまもりネットワーク活用	0 件	0 件	0 件
目 標	・ 認知症高齢者の日常の見守り強化、関係機関の連携強化			
	・ 認知症高齢者を支える家族介護者の負担軽減			
実 績	みまもりネットワーク登録者 24人【R 5：25人】			
	みまもりサポーターの登録 39団体【R 5：39団体】			
	GPSサービス利用補助 0件【R 5：0件】			
評 価	新規に4名がみまもりネットワークに登録し、関係機関で情報共有・見守りを行った。みまもりサポーターのあり方について検討が必要である。			
計 画	事業の周知を行うことで認知症高齢者等の不安解消や家族介護者の負担軽減に繋げる。関係機関との連携強化により、行方不明を未然に防ぎ、万が一行方不明が発生した場合の早期発見に繋げる。			

3. 成年後見制度利用支援事業

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7 当初予算
成年後見制度利用支援事業	4,635,648	4,151,940	6,726,000

事業名	①成年後見制度利用支援事業		
事業内容	要支援者の判断能力の低下による金銭管理の不安を軽減するため、成年後見制度の申立てにかかる諸費用、成年後見人等の報酬の全部または一部を支給し利用を支援する。		
目 標	高齢者の自立支援に向けて、地域との繋がりや生きがいを持ちながら暮らしていくための生活支援サービスを行う。		
実 績	市長申立人数 4人【R 5：1人】		
	報酬助成決定者延べ件数 18人【R 5：21人】		
評 価	高梁市権利擁護センター（高梁市社会福祉協議会へ委託）と連携を図り、成年後見制度の利用促進を行った。		

計 画	高梁市権利擁護センターとの連携を図りながら、成年後見制度の普及啓発、成年後見制度の利用促進を図る。
-----	---

4. 地域自立生活支援事業

事業費	R 5 決算	R 6 決算見込	R 7 当初予算
①高齢者見守体制整備事業	2,544,144	2,125,605	3,658,000
②配食サービス状況把握事業	19,136,846	17,451,321	18,247,000
③認知症サポーター養成事業	199,382	119,164	139,000
合 計	21,880,372	19,696,090	22,044,000

事業名	①高齢者見守体制整備事業
事業内容	独居高齢者宅等に緊急通報装置を設置し、365日24時間の見守り体制を構築する。
	●緊急通報装置（委託先：アルソック（株）） 機器を住居内に設置し、電話回線を利用して委託業者が安否や健康状態の確認を行う。通話ボタンを押すことで委託業者への通話や緊急時を知らせることができる。
	●緊急通報装置センサー付き（委託先：（株）シーモス） 通話ボタンを押すことが難しい高齢者に対し、センサーを室内に設置することでセンサー反応により委託業者が安否の確認を行う。動きが無い場合は、委託業者から本人へ安否確認または指定先へ連絡する。
目 標	独居高齢者の見守り支援
実 績	緊急通報装置 月平均利用者 62人 救急搬送 5件
	緊急通報装置センサー付き 月平均利用者 44人 救急搬送 5件
評 価	令和6年度は正報13件のうち10件救急搬送につながった。
計 画	自宅電話を設置していない利用者向けに、令和7年度から新たに携帯型緊急通報装置（利用者所有携帯電話、レンタル携帯電話）を加えて運用を開始する。

事業名	②配食サービス状況把握事業			
事業内容	栄養改善が必要な高齢者を対象に配食サービスを行ない、定期的・継続的な安否確認を実施。（社会福祉協議会委託事業）			
目 標	高齢者の自立支援に向けて、地域との繋がりや生きがいを持ちながら暮らしていくための生活支援サービスを行う。			
実 績	配食数 20,003食			
	地域名	R 5 実績	R 6 実績	実施回数
	高梁	13,766	14,064	4回/週
	有漢	318	169	1回/週
	成羽	3,439	3,307	3回/週
	川上	2,052	1,502	3回/週
	備中	1,651	961	1回/週（一部地域は2回/週）
	合計	21,226	20,003	
	＊R 6 実績 登録者数 238人 ボランティア数 515人			
評 価	令和6年10月から個人負担を1食500円で実施した。値上がりによる利用中止が1名おられた。令和6年度新規申請は80名おられるが、配食数は年々減少しており、入院・入所・死亡等による人口減少が考えられる。地域によって配食数が異なるため利用登録者が増えても食数に大きな変化が見られていない。			
計 画	事業内容の周知を図り、配食サービスを必要とする高齢者に対して、安定的・継続的にサービスを提供する。 今後も物価変動に応じて配食弁当の内容・利用者負担額を検討する必要がある。			

事業名	③認知症サポーター養成事業			
事業内容	認知症キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座の開催およびキャラバン・メイト活動の拡大。			
目 標	認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守る認知症サポーターを増やし、認知症の人と家族への支援の輪を広げる。			
実 績	認知症サポーター養成講座 実績 15回 【R 5： 25回】			
	サポーター数 実績 412人（うち初回受講者：403人） 【R 5：434人（うち初回受講者：340人） 小学生55人,中学生99人,高校生70人,大学生97人,団体・企業49人,地域42人			
評 価	例年養成講座を開催している地域・ボランティア・学生に加えて、団体・企業にも声かけを行い、金融機関や警察署職員に対して実施した。			
計 画	認知症サポーター養成講座：計画20回／年 サポーター数：計画400人 対象 学校（小・中・高・大学）、ボランティア団体、事業所等 職域への認知症サポーター養成講座の開催 地域包括支援センター主催での認知症サポーター養成講座の開催			